



2018年3月期 決算説明会

2018年5月15日

堀田丸正株式会社

代表取締役社長 大西 雅美

(東京証券取引所第2部 証券コード8105)

①RIZAPグループイン後は増収増益も通期は減益

- ・洋装事業は売上が拡大し、利益も飛躍的増加
- ・意匠燃糸事業は減益も、全体利益を牽引
- ・寝装事業は利益維持も、和装事業は赤字計上

②株主還元策の見直し

- ・配当方針の見直し(配当性向20%)
- ・株主優待制度の拡充(RIZAPグループとの連携)
- ・既存事業への成長投資を優先。

③事業譲渡、資産売却で財務基盤が健全化

- ・タケオニシダ事業譲渡。区分所有資産の売却
- ・今後の成長戦略推進のため構造改革費用計上

決算概要

連結損益計算書(通期)

- トップラインは馬里邑事業部を付加した洋装事業が25%増と全体を牽引。
- 半面、和装事業が15%減、寝装事業が8%減と低下傾向に歯止めがかからず。
- 和装事業は評価減処理の影響で赤字計上も事業所圧縮、人事交流の実施等で改革
- タケオニシダ事業譲渡で特損計上も、保有資産や保有株式の売却で最終は上方修正

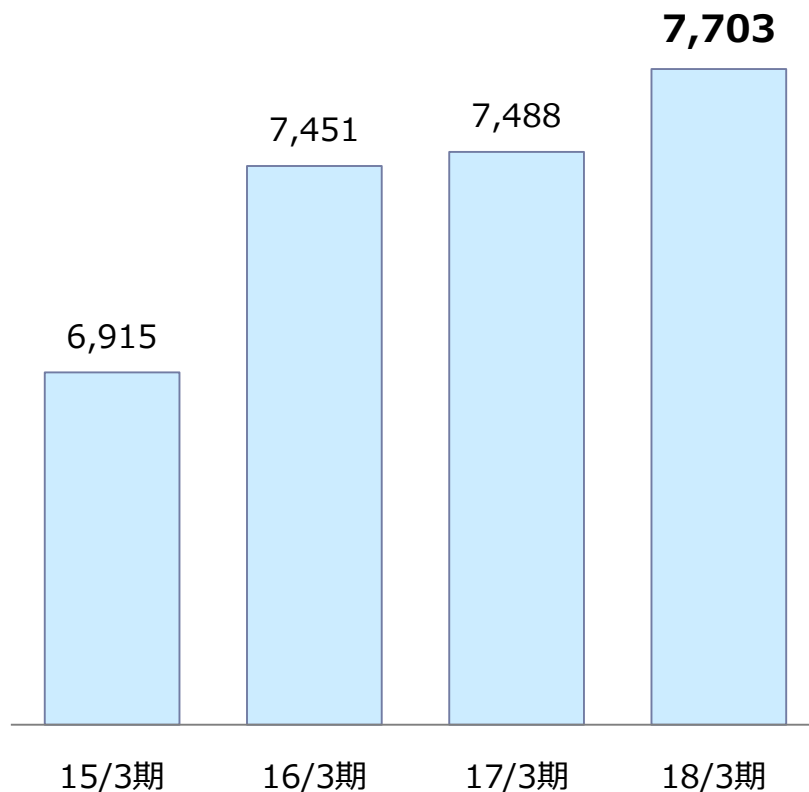
(単位:百万円)

	2017年3月期 通期	2018年3月期 通期	増減額	増減率
売上高	7,488	7,703	+215	102.9%
売上総利益	2,398	2,431	+33	101.3%
販管費	2,311	2,362	+51	102.2%
営業利益	86	68	▲18	79.1%
経常利益	108	56	▲52	51.8%
当期純利益	86	100	+14	117.4%

1Q（RIZAPグループ入り前）の赤字決算及び和装事業における40百万の評価減の影響で、増収達成するも、営業減益となる。

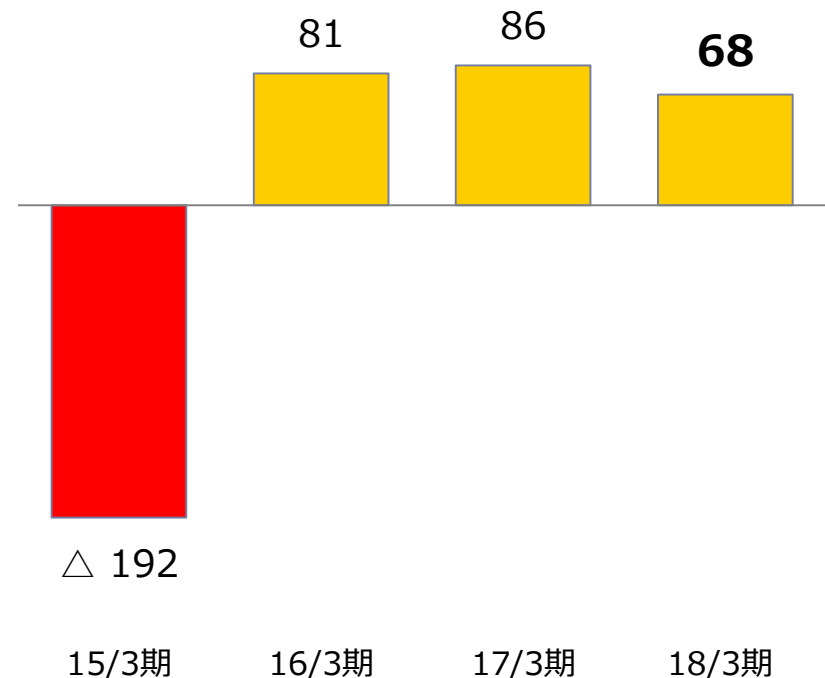
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



セグメント別実績(通期)

- 売上高は洋装事業の大幅伸長が牽引するも、他事業が伸びず、微増
- セグメント利益は洋装事業が1億強の増加も和装事業の赤字で減益

(百万円：%)

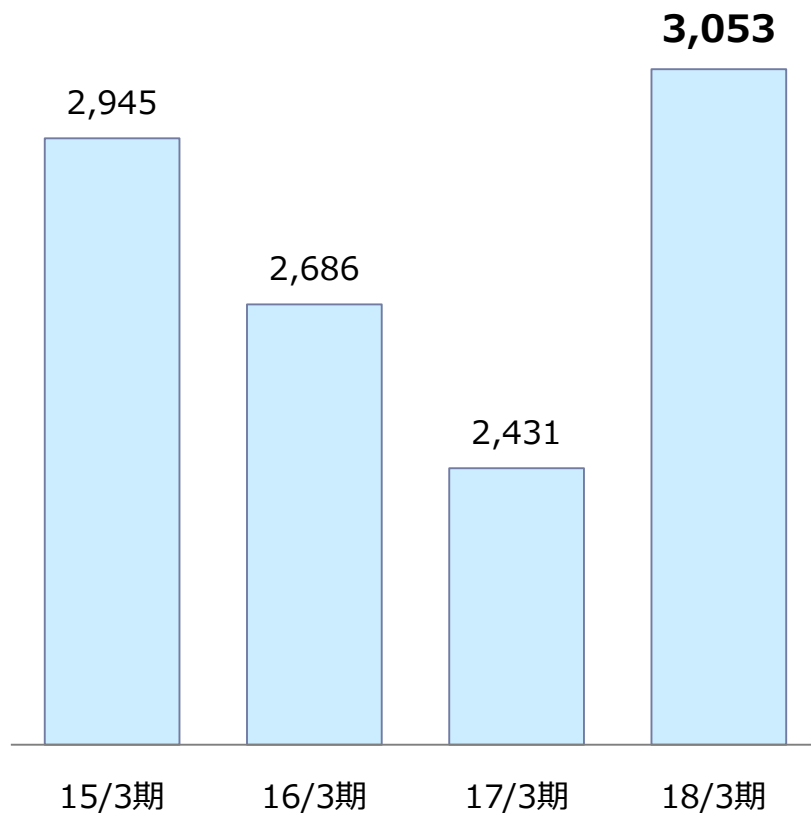
	売上高				セグメント利益			
	2017/3	2018/3	増減額	前年同期比	2017/3	2018/3	増減額	前年同期比
連結	7,488	7,703	+215	102.9	86	68	▲18	79.1
洋装事業	2,431	3,053	+622	125.6	4	116	+112	2800.0
意匠撚糸事業	2,187	2,177	▲10	99.5	200	173	▲27	▲13.5
和装事業	2,243	1,901	▲342	84.7	6	▲39	▲45	—
寝装事業	621	571	▲50	91.9	31	23	▲8	—
本社・調整	5	—	▲5	—	▲155	▲206	▲51	▲132.9

※連結売上高、経常利益、当期利益は連結相殺を含んでおります。

既存事業の構造改革、馬里邑事業の付加、タケオニシダの譲渡で
収益性の高い事業に転換

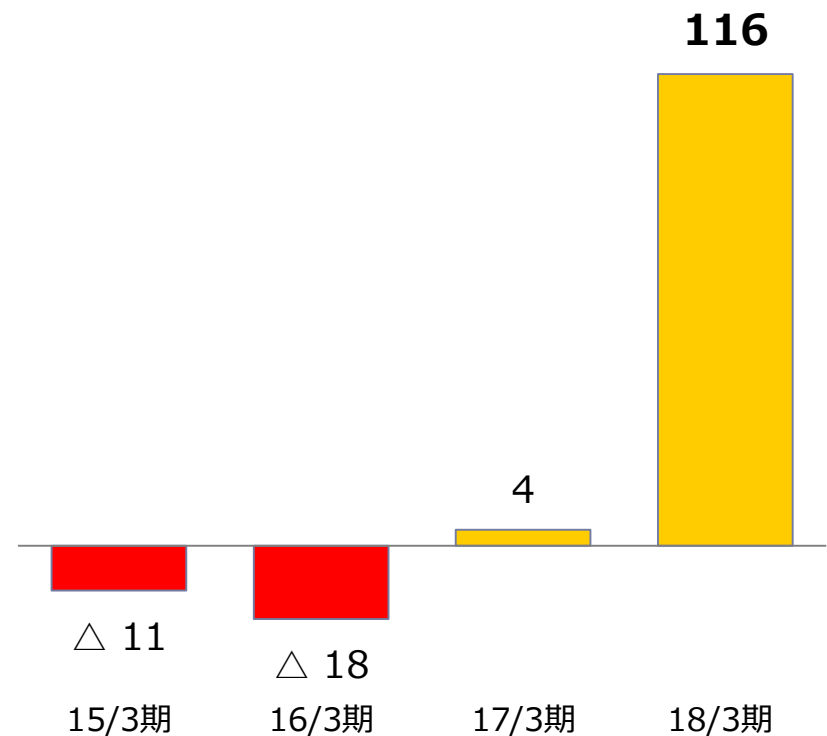
売上高

(単位：百万円)



営業利益

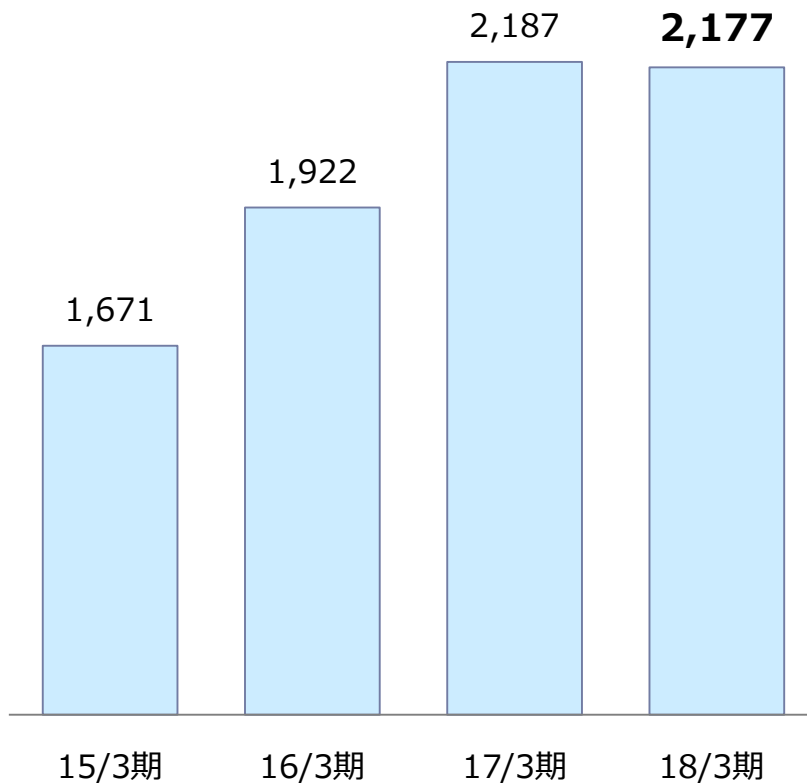
(単位：百万円)



日本・中国事業共に前期並みの売上推移であったが、仕入れコスト上昇に加え、卸値の値下圧力傾向で荒利低下、営業減益

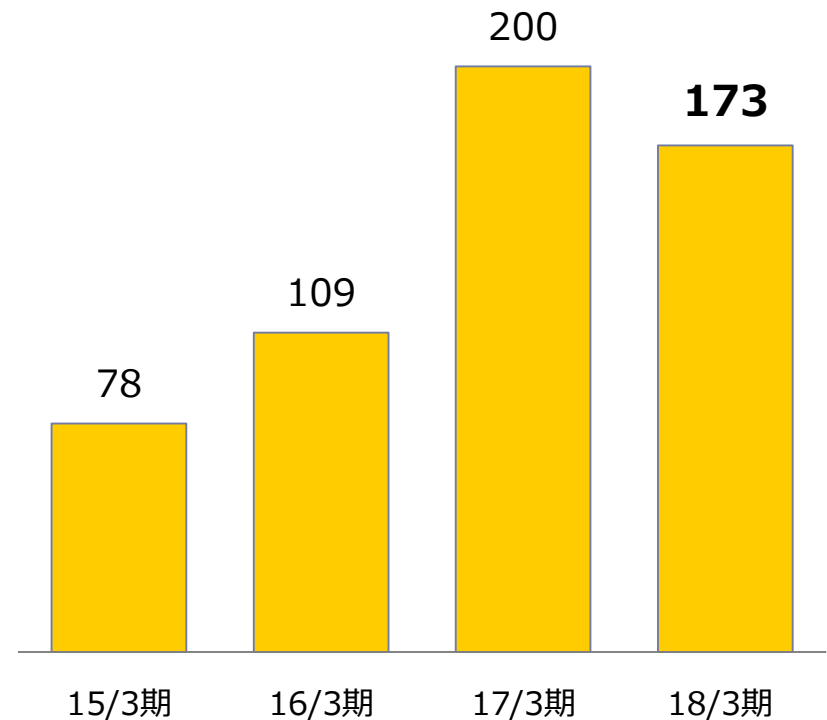
売上高

(単位：百万円)



営業利益

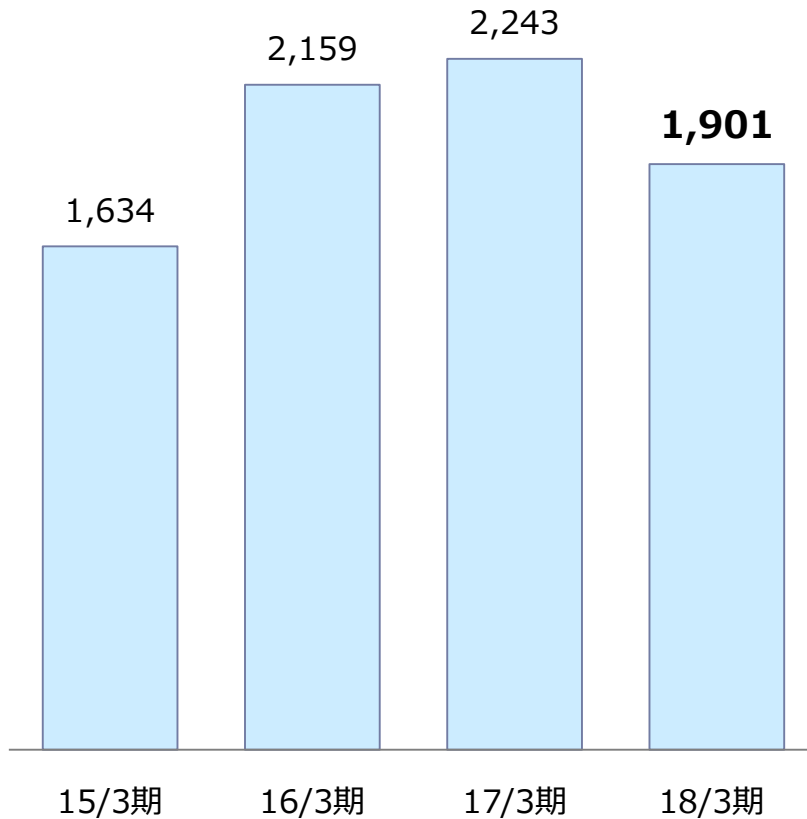
(単位：百万円)



子会社吉利を含む集中的な構造改革実施。アカウントの選択と集中により、売上減少。在庫評価減 40 百万計上で営業赤字

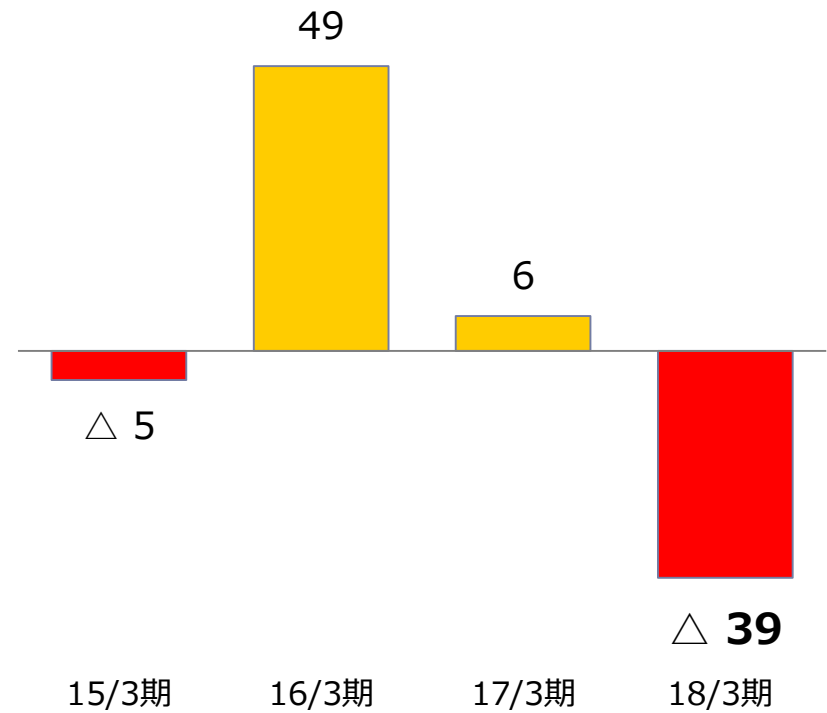
売上高

(単位：百万円)



営業利益

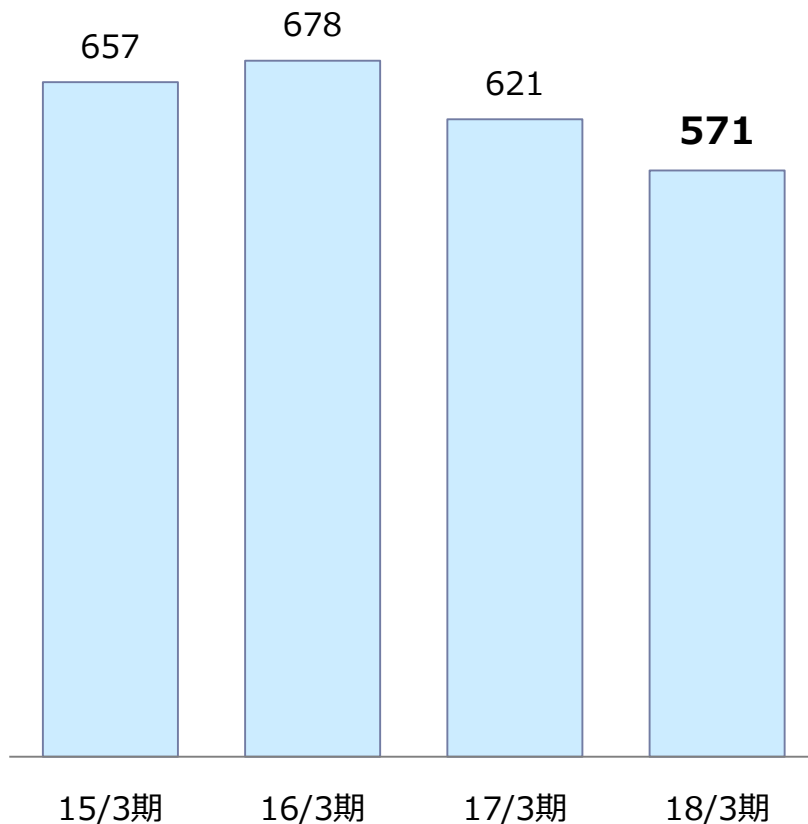
(単位：百万円)



アカウントの選択と集中により、減収。厚木拠点規模縮小、人員体制の見直しで固定費を圧縮し、効率化実現。

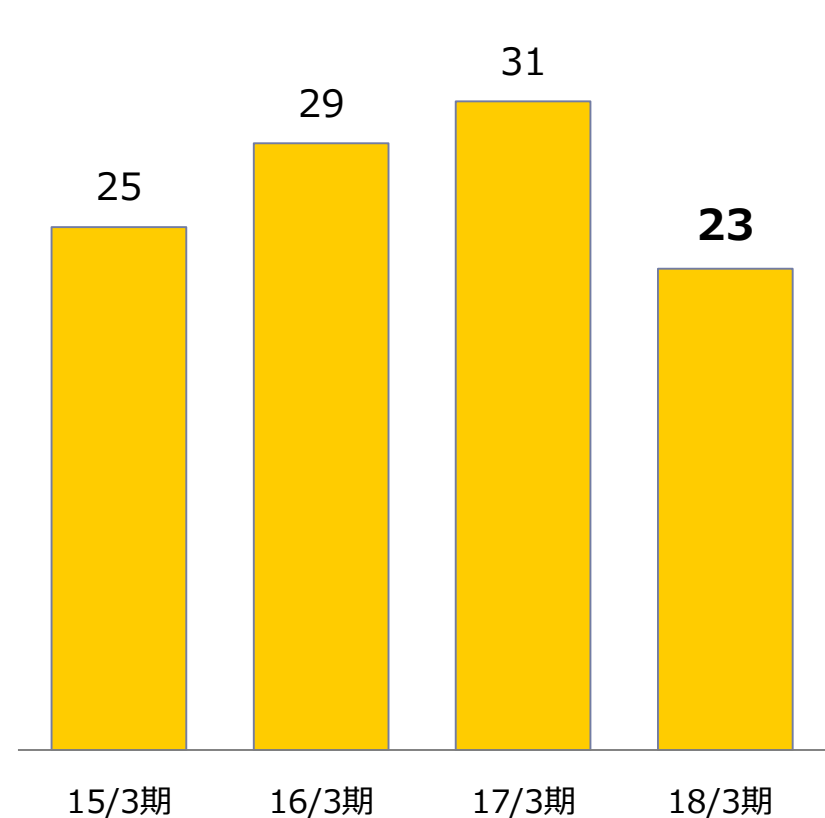
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)

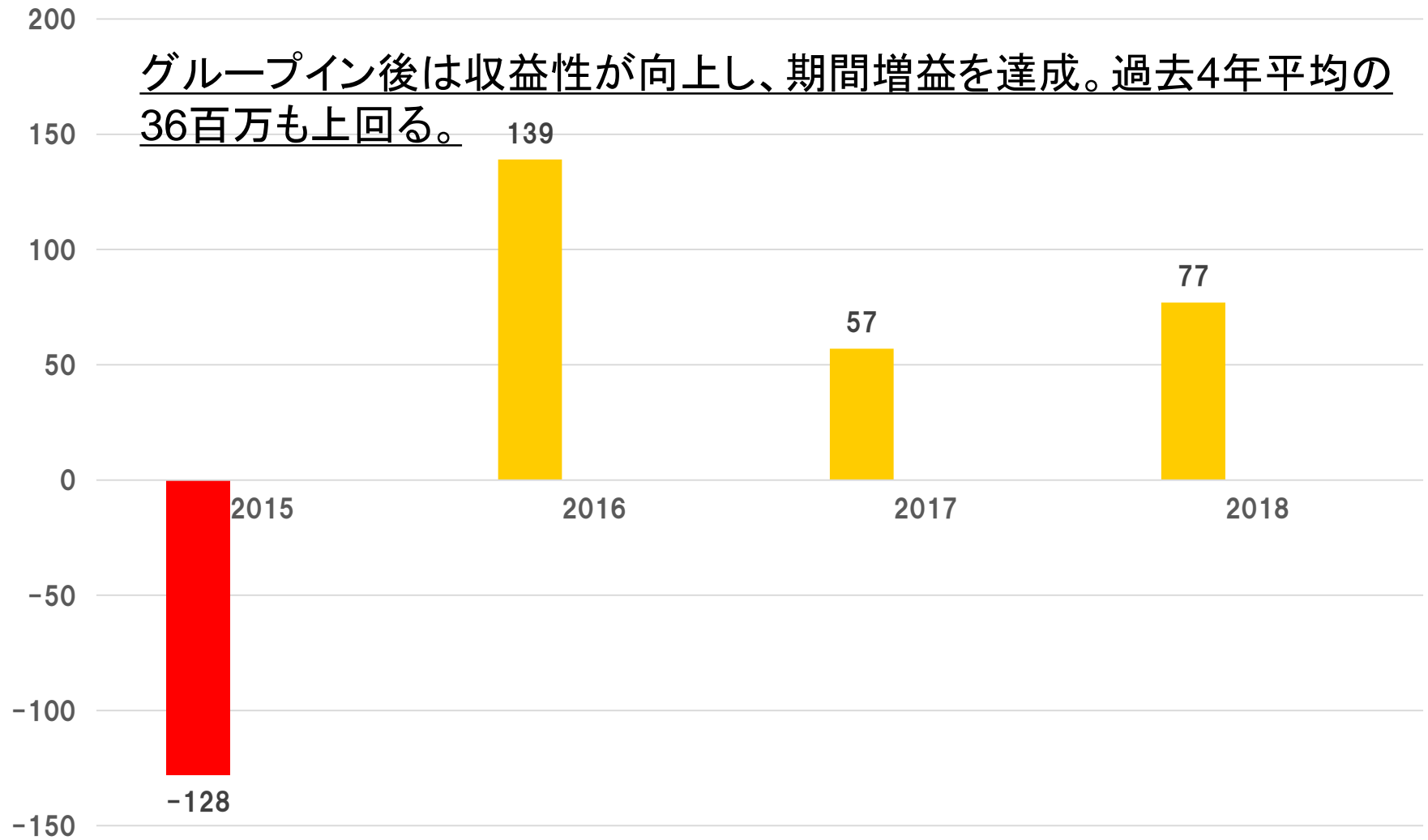


連結損益計算書(第2-4Q累計)

- RIZAPグループ連結後期間累計では、増収及び大幅な増益を達成。
- トップラインは、馬里邑を付加した洋装事業が35%増と全体を牽引。
- 構造改革による販売管理費抑制効果もあり、営業利益は1.35倍。最終利益は1.6倍。
- 保有資産の売却が完了し、70百万強の特別利益計上。

(単位:百万円)

	2017年3月期 2Q-4Q	2018年3月期 2Q-4Q	増減額	増減率
売上高	5,754	6,007	+253	104.4%
売上総利益	1,807	1,881	+75	104.1%
販管費	1,750	1,804	+54	103.0%
営業利益	57	77	+20	135.1%
経常利益	83	77	▲6	92.8%
当期純利益	75	126	+46	168.0%

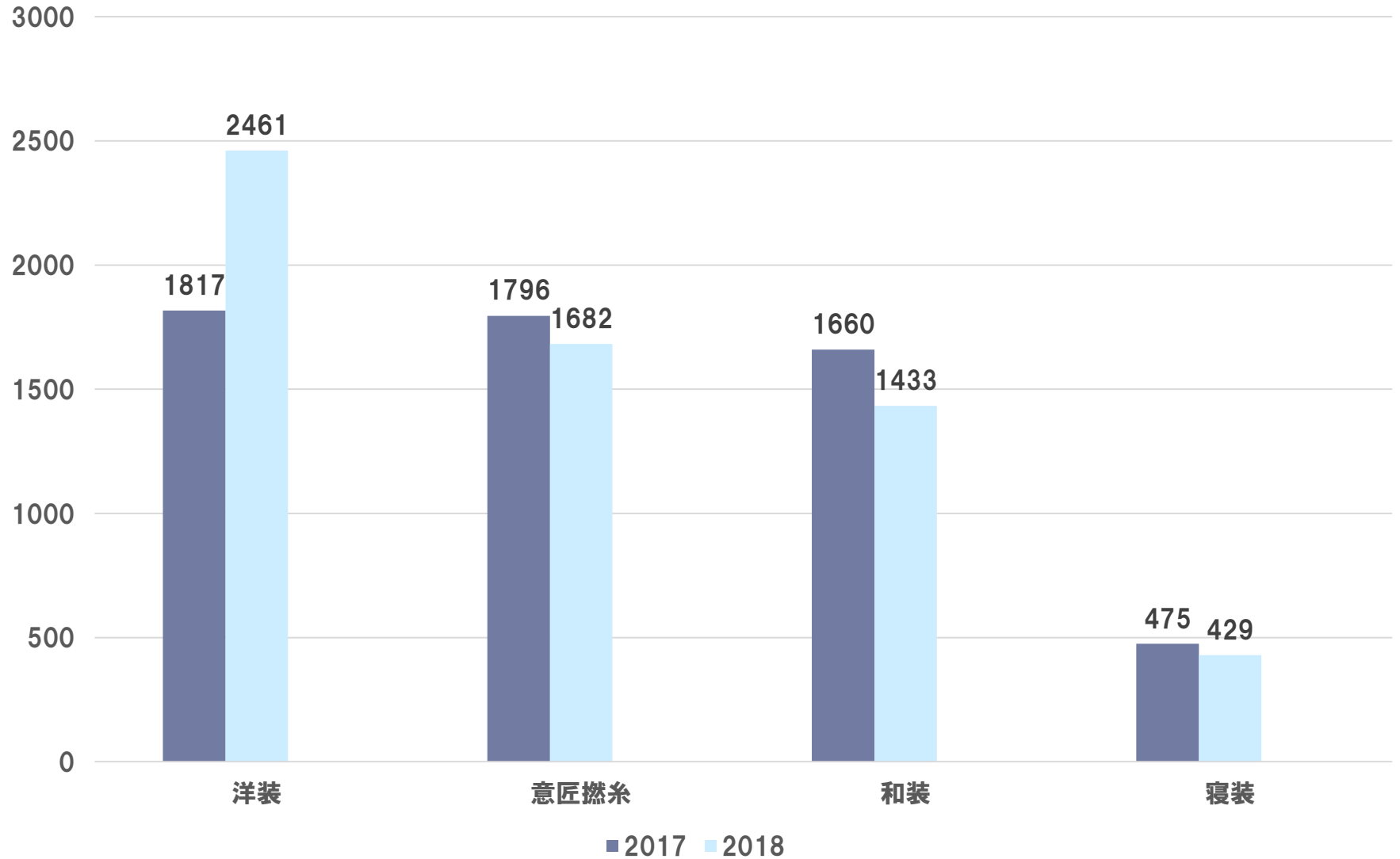


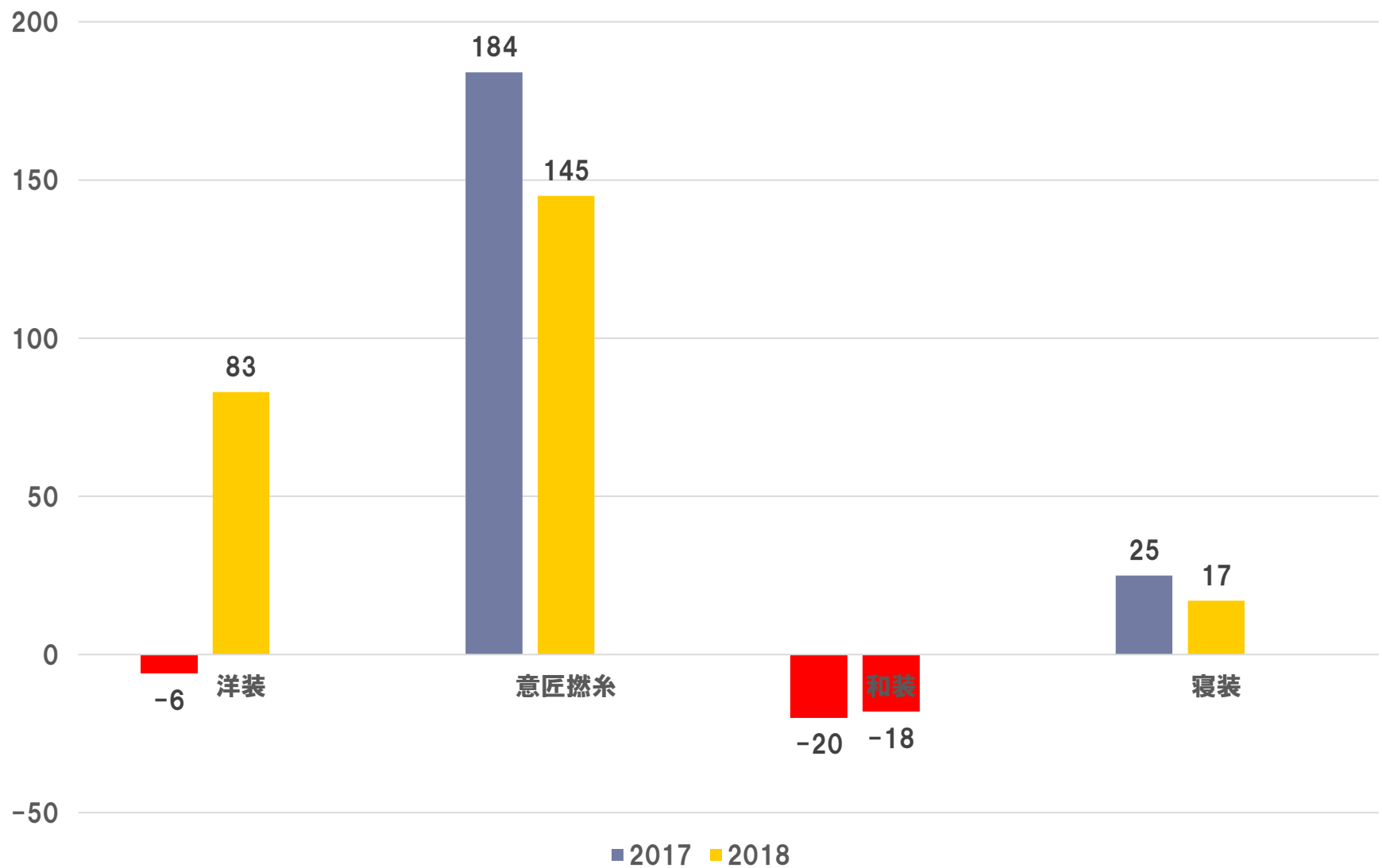
- 洋装事業はアパレル、馬里邑事業の売上増に加え、荒利率改善が奏功。
- 和装事業は売上減少傾向も、事業所統合、人件費圧縮も、評価減影響で赤字

(百万円：%)

	売上高				セグメント利益			
	2017/3	2018/3	増減額	前年同期比	2017/3	2018/3	増減額	前年同期比
連結	5,754	6,007	+253	104.4	57	77	+21	135.1
洋装事業	1,817	2,461	+644	135.4	▲6	83	+89	—
意匠撚糸事業	1,796	1,682	▲114	93.7	184	145	▲39	78.8
和装事業	1,660	1,433	▲227	86.3	▲20	▲18	+2	—
寝装事業	475	429	▲46	90.1	25	17	▲8	68.0
本社・調整	4	—	▲4	—	▲127	▲150	▲23	▲118.1

※連結売上高、経常利益、当期利益は連結相殺を含んでおります。





■ RIZAPグループと連携した魅力的な優待を開始

優待内容

当社商品を含むRIZAPグループ各社の商品からご希望の優待商品をお選び頂き、贈呈いたします。

- RIZAPグループ商品 2,000円相当
500株以上、1500株未満
- RIZAPグループ商品 6,000円相当
1500株以上、2500株未満
- RIZAPグループ商品 10,000円相当
2500株以上

権利確定月：3月末日(2018年3月期)



※カタログは製作中の為、イメージです

配当内容

	変更前	変更後
2018年3月期	4円	配当性向20%

- 継続的に配当を実施できる収益基盤を醸成してまいります。今後、より一層の業績拡大を図り増配を目指してまいります。

変更理由

当社は、平成29年6月28日のRIZAPグループ入り以降、同社グループのグローバルSPA戦略の中核企業としての持続的な競争力の確立を推進しており、現時点においては、意匠撚糸事業、その他既存事業への成長投資を優先させて、配当等の株主還元策の更なる拡充は、安定的な収益基盤が確立されてから行うとの方針であります。

2018年3月期 配当金額 1株 0.35円

連結貸借対照表

●自己資本率は74.5%と2017/3期末比11.3%改善

●流動比率は372%と同期末比149%良化

(百万円)

資産の部	2017/3 期末	2018/3 期末	増減額	負債・ 純資産の部	2017/3 期末	2018/3 期末	増減額
流動資産	3,503	5,838	+2,337	流動負債	1,568	1,571	+1
固定資産	957	531	△426	固定負債	69	48	△21
資産合計	4,460	6,369	+1,911	純資産	2,821	4,751	+1,930
				負債・純 資産合計	4,460	6,369	+1,911

今後の経営方針

今後の経営方針

①グループシナジーの追求で売上、収益拡大

- ・和装でD&Mとの協業(着物サポーター)
- ・寝装で健康Cとの協業(安眠マットレス)
- ・洋装ではばど、サンケイLと協業(催事告知)

②主力意匠撚糸及び洋装事業の更なる拡大

- ・意匠撚糸中国現地法人の収益性改善
- ・海外アカウント拡大のための欧米展示会参加
- ・馬里邑事業の効率化及び拡大推進

③和装事業の一層の収益性改善

- ・個別荒利管理指標の導入で売上総利益改善
- ・既存アカウントへの洋装に供給スタート

重要方針/戦略

概要説明

方向性

1
意匠撚糸事業の拡大

中国現地法人による海外企業向けの意匠撚糸共有の飛躍的な拡大を図る

既存の上海展示会に加えて、パリ・ミラノでの展示会参加し、新アカウント開発を推進

2
意匠撚糸事業の収益性改善

従来为中国商社経由での取引を直取引に変更することでマージン負担軽減

堀田上海の収益構造見直し
親会社貸付の実施で攻めの体制

3
洋装事業の拡大強化

2017年7月の営業部門を取込んだ馬里邑事業の効率化を実現し、洋装事業の牽引役に転換

洋装事業の主力事業化を実現

4
和装事業の効率化

売上規模縮小と連動したコスト削減を継続実施、利益創造をはかる

荒利管理指標の導入で収益良化
コスト負担大のホテル催事中止。
(株) 吉利の利益最大化

5
寝装事業の再構築

事業部体制の抜本的な変更により、収益体質への転換をはかる。

寝装営業体制を見直し、売上拡大、効率化実現
ギフト事業の更なる拡大

今期の業績見通し(年間)

(単位:百万円)

	2018年3月期 年間	2019年3月期 年間	増減額	増減率
売上高	7,703	7,346	▲357	95.4%
売上総利益	2,431	2,264	▲167	93.1%
販管費	2,362	2,164	▲198	91.6%
営業利益	68	100	+32	147.1%
経常利益	56	103	+47	183.9%
当期純利益	100	70	▲30	70.0%

●収益構造の改善効果で1.5倍の営業利益を見込む

- ①経常利益ベースでも1.8倍と堅調推移維持。当期は前期の特益の反動で減益。
- ②トップラインは和装事業の縮小影響で前年並みの見通し。

免責事項

本資料は、当社の企業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性・完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがありますので予めご了承ください。